
When the West wind blows

亜李子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

When the West wind blows

【Nコード】

N1567BA

【作者名】

亜李子

【あらすじ】

推理小説好きな主人公、リオンが山と川に囲まれた村で次々に起こる怪事件を解き明かすミステリーホラーである。

The first story 1 - 1 Into the country

僕が初めて挑戦する推理小説をぜひ観覧していただきたいと思います。2年ほどまえにもいろいろと小説を書かせてもらいましたが、それもついででいいので覗いていただいたら幸いです。今後とも宜しく願います

10月10日（日本時刻）午前7時、生まれ育ったイギリスを離れ日本へと飛び立った。

僕の名前は綾瀬 リオン（璃御）高校2年生の17歳だ。父がイギリス人で母が日本人のいわゆるハーフってやつだ。趣味は推理小説を読むことやあとはチェスをするのが趣味かな。あとは自分がかをする度に手帳に時間とその出来事を記すのが子供のころからの趣味だ。おかげで手帳の数は部屋一杯にあるわけだが。

ところでなぜ僕が日本へ行くかというと、母が久しぶりに日本に里帰りするのについて行くんだ。母の父にあたるお人、綾瀬 秀人、僕の祖父は僕と同じ推理小説とチェスが好きなひとで実を言うところの趣味は祖父の影響をばっちりと受けたわけだ。2年ぶりに会うのでとても楽しみなんだ。今回の里帰りには父はついてこなかった。仕事が忙しいみたいらしい。

10月10日（日本時刻）午後8時、空港に到着。タクシーで祖父の家を目指す。祖父の暮らしているところは美しい山と川に囲まれたひっそりとした村だ。ロンドンの賑やかな雰囲気も嫌いではないが、やっぱりこいつた静かな雰囲気はやはり最高だと思う。

10月10日午後11時、祖父宅に到着。あたりはすっかり真っ暗でいかにも「でそう」な感じがするのである。祖父と軽いあいさつをしたあと、僕は就寝した。

The first story 1-2 Reunion

10月11日午前6時、起床。自然に囲まれた村での朝ははの上なくすがすがしいものだった。祖父はすでに起床しており、ただ一人でチェスの盤面の思考を巡らせているのであった。祖父は僕に気づき、軽くあいさつをした後、僕は祖父の相手をする事になった。

「ふ、ははははは、やはり璃御はおもしろい。わしの相手にちょうどよいわ。」

「爺様には劣りますよ。今でも爺様と対等なのか不安ですし。」

僕はイギリスのほうでもそこそこの知れたチェスプレイヤーで一度テレビ番組にも出演があったぐらいなんだが、祖父と対戦をしていると、いつのまにか祖父の手にかかれいつもリザインにいつめられるのだ。

「リザインです。爺様は本当に凄い人でですね。僕なんか簡単に倒されてしまう。」

「もう、リザインか。早い、早すぎるわ！思考を止めるでない。」

突然、祖父が大声をあげた。僕の記憶上では祖父はこんな大声をあげる人ではないはずだ。すると、祖父はぶつぶつと独り言を口にした。

「璃御もやはり駄目であったか。器が小さすぎる。お前との思考を巡らせる旅をもう一度したい。頼むからもう一度姿をあらわし、わしと至極の時間を過ごそう。Watch of Wisdom。今

度こそ勝ってお前の名を聞かせてもらいたいのだ。だからもう一度姿をあらわしてくれー」

壊れたスピーカーのようになってしまった祖父をただただ、呆然と見ていることしかできなかった。

すると、母の母にあたる、つまり僕の祖母の「福音」がそっと僕の肩に手を置いた。

「おはよう、璃御ちゃん。びっくりしたでしょ？2年前からすこしおかしくなったのよ。」

「おはようございます。本当にびっくりですよ。それよりも、爺様の口から度々出るその、Witch of wisdomつまり智恵の魔女って言うのはいったいだれのことですか？」

僕は祖母に恐る恐る話した。なぜならば祖父とチェスをやるうだなんて村の人じゃ考えられないし正体不明の人物Xが存在するのは、とても怖いものなのである。すると祖母は祖父に冷たい目線を送りながら話した。

「幻想ですよ。まったく、さしずめ夢で見たことを現実であったと錯覚しているんですよ。」

祖母は呆れながら言った。

「でも気になりますよね。爺様の幻想ってやつ。どうして2年も固執するのか、一体爺様になにがあったのか詳しく知りたくありません」

すると、奥のほうから母の声が聞こえた。

「やめておきなさい。こんなところでも推理ごっこをやるなんて。体を休めるためにきたっていうのに。とりあえず父さんのことは忘れて外でも散歩してきたらどう?」

母がそう提案すると、祖母も散歩でもしてらっしゃいと言われたのでとりあえずは爺様のことをおいておくことにした。

川沿いを歩いていると、2年ぶりに会う久しぶしい面影がみえた。するとその影は僕に気づいたのか僕に駆け寄ってきた。

「もしかして、璃御君だね。ひっさしぶり!また背伸びたんじゃあない?そのなんていうか・・・その、カッコよくなつたよね。」

と、もじもじしながらしゃべる少女は僕と同年の「桜 桐乃」小柄で人なつっこい子で僕も彼女のそうだったところは嫌いではなかった。一見すると小学生に見える、というよりも幼さを感じるというたほうがいいのかもしれない。

「久しぶり、桐乃。お前も少し背が伸びたんじゃないか」

「え!?!そうかなあ。ふふ、嬉しいな。ありがと。ところで、いつまでこの村にいるの?」

「えっと、今回は明後日まではこの村にいるよ」
スケジュール帳を見ながら僕は言った。

「へえ、そうなんだ。じゃあ今日から3日間、おもいつきり遊ぼうね!璃御君。」

桐乃がにこにこしながら言った。この3日間僕は充実した休みをとれるだろうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1567ba/>

When the West wind blows

2012年1月4日11時50分発行